写真ページへつづく

28～34ページ

「アッ」と思った。

写真 人体実験と生体解剖の「満州医大」

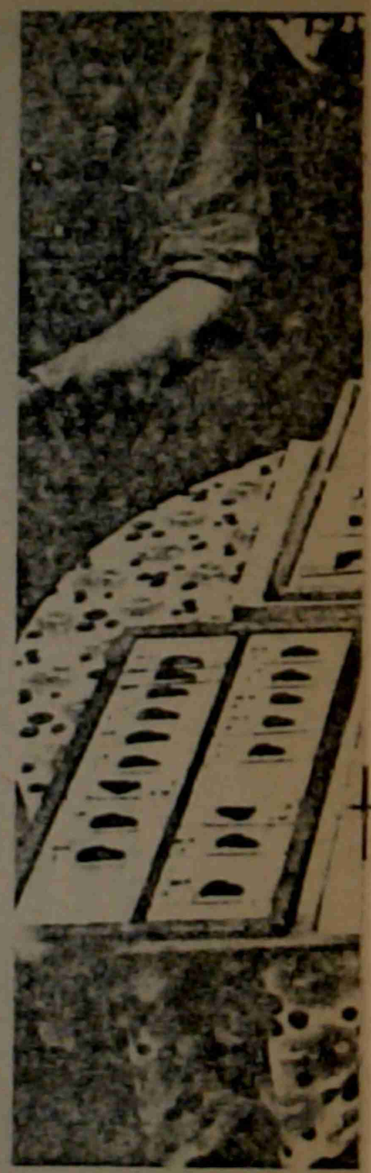
――北野政次（ミドリ十字相談役）の罪状をあばく!!――

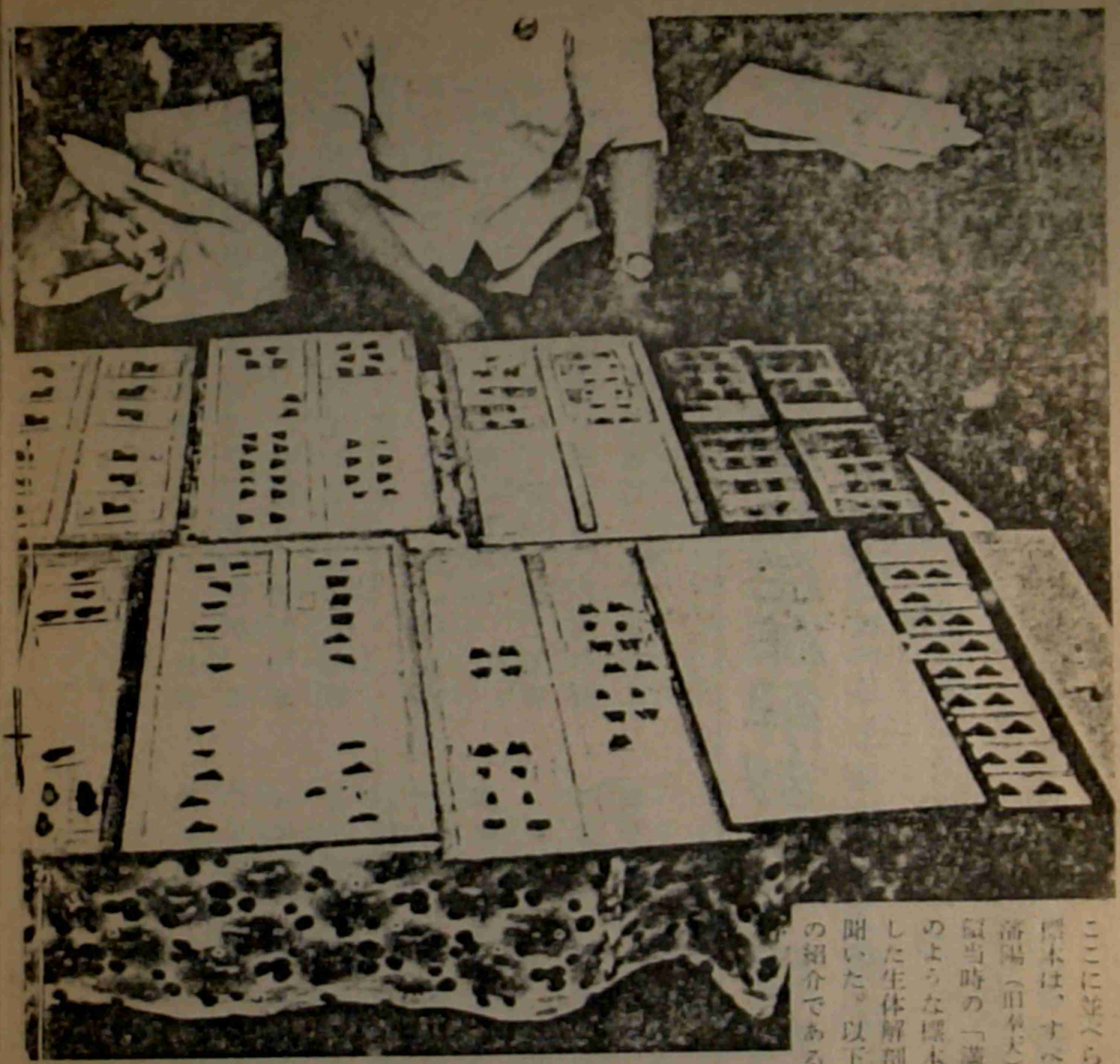
ここに紹介するのは、本多勝一という人が書いた『中国の日本軍』という本だ。

見たこと聞いたことをありのままに書き、それによって、何の自己批判もすることなく生きのびている戦争犯罪人を追及している。

本多さんは、実際に中国へ行ってきて

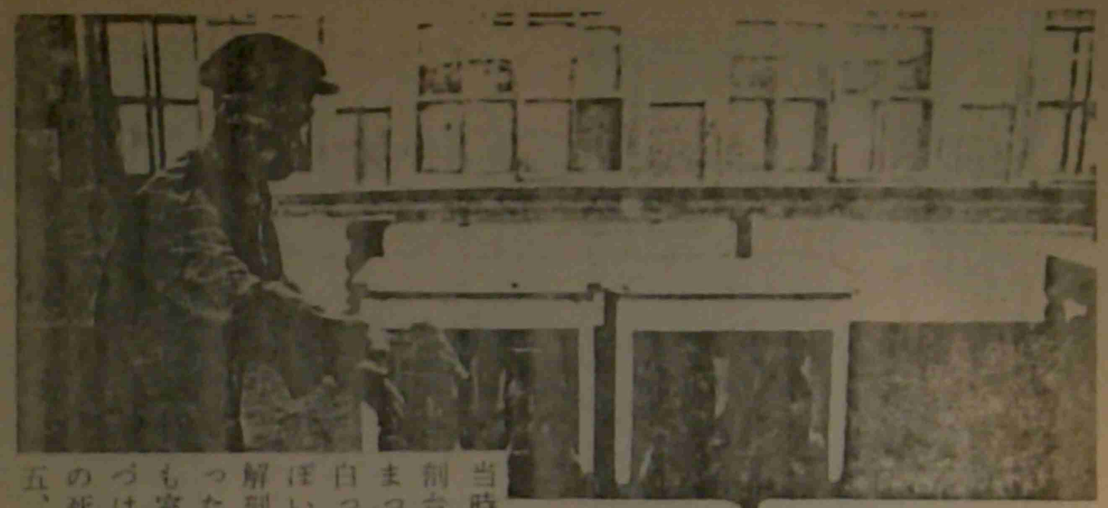
たいへんいい本なので一部分転載する。





ここに並べられたたくさんのグレイ・ラート標本は、すべて人間の大腦の切片である。瀋陽（旧奉天）にある瀋陽医学校　日本占領当時の「満洲医科大学」を訪れると、このような標本を前にして、中国人を材料とした生体解剖と細菌実験の驚くべき証言を聞いた。以下はその証言と証拠品及び論文の紹介である。

この張本忠さん（六三）は、一九三二年からこの医科大学に働いている。一九四一年の冬のある夜、張さんは日本人から解剖室の死体を片づけるように命じられた。同僚の中国人雑役夫と二人で解剖室にはいると、生臭いにおいとともに、床に新しい血がいっぱい流れていた。解剖台の上には八人の死体が置かれてあった。肝臓や肺臓などの切片が散乱している。脳ミソもとりだされていた。解剖学教室に長くつとめていた張さんは、死体の解剖であれば決してこんな鮮血は流れださないことは知っていた。血の色が全く違う。あきらかに生きた人間から流れだした血であった。イスの上には日本軍憲兵の軍靴の跡がついていた。一人だけいた中国人の先生にこの話をすると、先生は「あの晩、私は解剖室から呼び声がするのをきいたよ。恐ろしいことだ」といった。



当時の解剖室で張さんは説明した——「解剖台のまわりは鮮血におおわれて、死体はまっしろでした。生きていたからあんなに白っぽくなるんです。死体だったら黄色っぽい色をしています」

解剖台は、当時は固定したコンクリートだったという。生体解剖のときは、出入口にも室内にも憲兵が立っていた。張さんが片づけただけでも、こうした生体解剖のあとの死体は一九四一年から翌年までの間に十五、六人に達した。

こうした生体解剖の結果がどのような目的で行なわれたか。写真は、東北人民政府衛生部伝染病防治院発行の医学雑誌『防治医学』(第一巻第四期、一九五一年)の、細菌戦犯の生体実験という調査報告の冒頭である。細菌兵器の開発で有名な石井部隊長『石井四郎』の名も出てくる。この報告で責任者として糾弾されているのは「北野政次」である。この北野はこの石井四郎のあとをついで満州七三一部隊の責任者となった北野政次軍医中将を指し、当時満州医大の教授であった。

本刊評論

細菌戦犯的活人試験

斑疹傷寒預防接種的研究

（自製斑疹傷寒疫苗的人體實驗）

東京大學醫學部
北野政次
渡辺栄
岩田茂
細菌戰犯

「北野」のほか岩田茂、渡辺栄の計三人で行なった人体実験による発疹チフスの予防ワクチン研究論文の目次。この論文は未発表だったが、日本敗戦後「満州衛生技術廠」にいた河野通男という研究員の遺書とともに発見されたのを、この報告で中国語に訳したものである。

目次

第一章　緒　　言
第二章　實驗用疫苗作法
第三章　實驗材料及方法
　(一)實驗材料
　(二)實驗方法
第四章　實驗成績
第五章　總結及討論
第六章　結　　語

第一章　緒　　言

第三章　實驗材料及方法

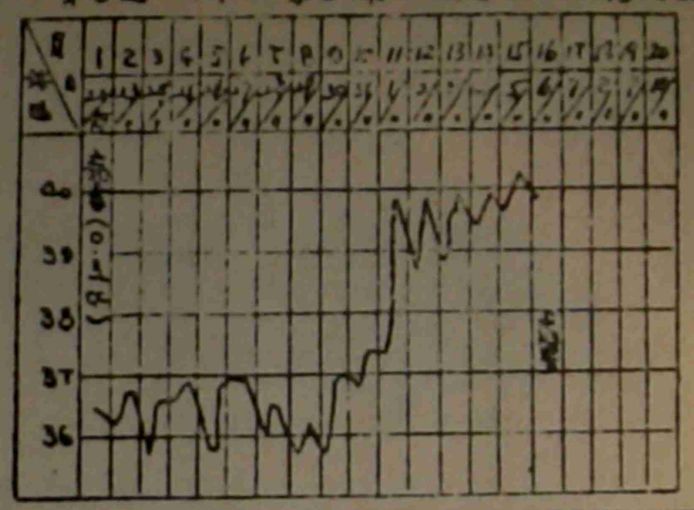
論文の中で第三章の「実験材料及び方法」の冒頭で「北野」らは次のように述べている——

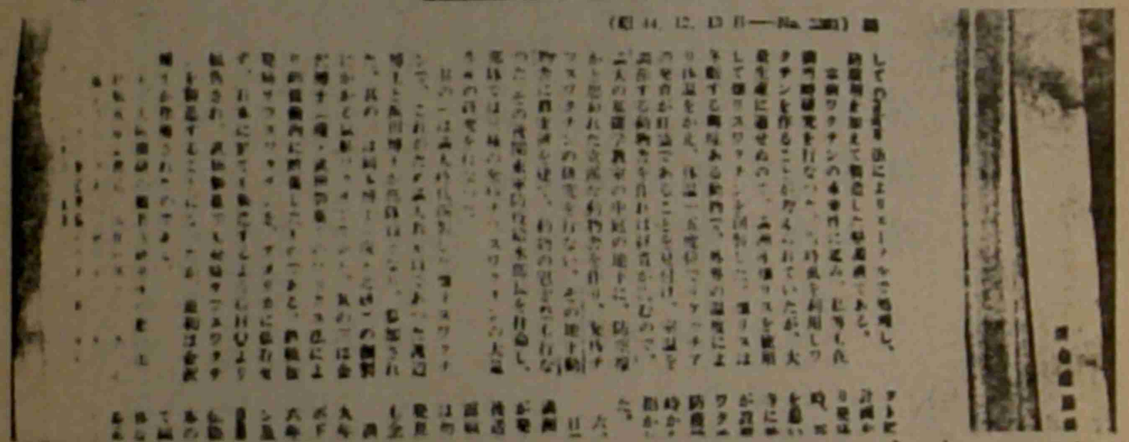
「われわれは臨江地方で十人の志願者と三人の死刑囚を使って人体実験を行なった。かかる実験は、われわれが最初でもなければ、われわれの発明でもない。欧米各国は早期より死刑囚を利用して医学実験を試みてきた。われわれが実験に使った人体は、発疹チフスにかかったことがなく、かつその他の急性的熱性病にもかかったことのない三十二歳から七十四歳までの健康な男性であった。」

效果，在大量應用前，總希望着有用人體作
主要要靠前輩的努力，但仍要依動物實驗及
易感染效力，不僅要靠動物實驗，只有在

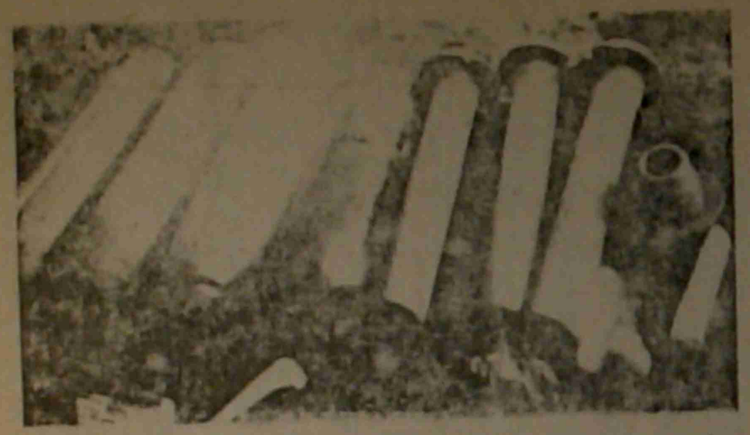
「志願者」和3名死刑犯人」，得到了作人
美各國亦已有用死刑「犯人」及志願者作
易感染效力大後，本着能早一天自病魔

為如斑疹傷寒及其他急性熱性病的32～74歲





石井細菌部隊の後任責任者として赴任した北野政次軍医中将は、その後こうした犯行について中国側からもその他連合国のいずれからも追及されることなく、終戦している。現在製薬会社「ミドリ十字」の相談役である。彼がこのような形で今も活躍していることを、中国側は次のような資料で知った。すなわち、この写真のような随筆を、「北野」は最近の日本の医学雑誌『日本医事新報』（第二三八一号、一九六九年十二月十三日発行）に発表している。その「防疫秘話」という記事は、チフスのワクチンをつくるために満州産畑リスを飼育して研究した様子を書いたものだが、もちろん生体実験などについてはふれられていない。しかし実験につかわれた畑リスのためにその地下動物飼育場に「群霊碑」をたてて動物の慰霊祭を行なったことを書いている。その地下飼育室にも案内されてみた。なるほど「群霊碑」の石の碑が広場の隅にたてられ、その下にはっきりと「北野政次」と石に彫りつけられていた。こうした事件を証言した瀋陽医学院の周政任さん（三〇）は「実験動物のためには一見やさしく碑をたてる『北野』が、実験で殺した人間のためには、



石井部隊の工場で発見された細菌爆弾と人骨

なんにもしないで口をぬぐっているのです」と怒りの色をあらわに語った。

そこで私は、日本に帰国してから、「ミドリ十字」に電話し、この中国側の証言を『週刊朝日』の記事として発表する前に本人に直接聞いてみた。その時の一問一答を録音してあるので以下に正確にそのまま発表する。

本多「私、朝日新聞の本多と申しますが、ちょっとお伺いしたいことがございまして、『日本医事新報』というのがありますね。あれのこれは一昨年の十二月号で、北野さんが書かれている〝防疫秘話〟というのがありまして、その中で発疹チフスの実験というかワクチンのことを書かれていまして、それで満州産畑リスを使った実験のことを書いてありますが、実は私、今年の六月に来天に行ったんです。それでいろいろあそこでに行ったんです。それでいろいろあそこでお話を聞いたんですが、その中にですね、このワクチンを作った時に人体実験をやったといういろんな資料をみせてくれたわけです。これが一応事実であれば一連の中に入れさるを得ないのですが、どうでしょうか……」

北野「……」

本多「つまりこれの事実関係というのは」

北野「そういうことはないんですがねえ」

本多「ないというのは……ただ論文なんかを全部見せてくれましてね、まあかなりそれは、まあの論文が捏造であるという場合を除けば、人体実験をやったということが書いてあるわけなんですよ。北野さんご自身の論文の中に」

北野「……（約十五秒間沈黙）……それはどこで手に入れられたですか」

本多「それはむこうの満州医科大学なんです」

北野「……」

本多「その満州医科大学がそれを手に入れる過程というのは、いろいろくわしく聞きましたけれども」

北野「……（約十五秒間沈黙）……」

本多「事実関係にですね、まちがいあるいはくいちがいがあれば、できるだけただしていきたいと思うんですが」

北野「……」

本多「あるいは北野さんご自身の釈明というか、否定といいますか、それをあとで載

せるということも考えられるわけなんですが、一応ご連絡だけはしておきたいと思いまして」

北野「はあ……（約三十五秒間沈黙）……」

本多「何かあれでしょうか、そういう資料というか、そういうことはないというような……」

北野「私は、そういうことはありませんがねえ」

本多「ええ……、わかりました。それでは、あらためてそんなことをくわしく出したものを送りますので、それに対してまた、何ていうか、あるいは反論なりなんなりして下されば、ありがたいと思います」

北野「わかりました」

本多「じゃあ、お願いします」

この件についてはその後『週刊新潮』（一九七二年一月八・一五日合併号）及び平岡正明氏の単行本『日本人は中国で何をしたか』（潮出版社）でも追及されている。北野氏からの反論または何らかの態度表明はまだない。しかし私の個人的な考えでは、これらはもはや動かすことのできない証拠だと思う。北野氏がもし深い反省をして、何らかの形で態度を表明しようとする場合、もっともよい方法は被害者としての中国側の裁判をすんで受けることではないだろうか。蔣介石政権とちがって、革命後の中国が日本人戦犯にとってきた態度をみていると、死刑にするというようなことはまず考えられない。新中国は犯罪に対して、基本的に教育による人間の再出発を原則としている。北野氏がシラを切りとおすのは、自由だが、それでは彼自身の良心をもだますことはできないのである。

転載にあたって、写真・説明ともに組みかえました。

なお、33ページの写真だけは、中国帰還者連絡会編『復讐』から転載したものである。

一口かべ新聞

"評論"を読もう！

ジャンジャン町入り口の東、パチンコの大一と反対側に少し行くと、名物の店がある。

あれはハンコ屋だったか表札屋だったか、よく前に立つくせにいまはっきり言えない。

なぜ言えないかっていうと、前に立つことは立つけれど、ちっとも店のなかを見ないからだ。

じゃあなぜ前に立つか。面白いからだ。店の前にいろいろと"評論"が出ている。店のオッサンが大きな紙に筆で書いた"時事評論"だ。筆のこともかならず書いてある。そしてなかなか勉強になる。

雑誌にも新聞にものらない、テレビにも出ない、一枚きりの"評論"を読もう。あれは筆のタカラものだ。（立ちんぼ）

〈広告〉釜生協 組合員募集中!!

（勝安橋下ぐんわ 六三三一ー六三七三）

一口千円の出資金で次の特典が!!

① 単身者 二千円、子持ち 五千円、までのつけ買い

② 洗たく機を五十円で使用できる

③ ガスを無料で使用できる（ラーメン、うどん、やきそば料理他）

なお、出資金は要求に応じて返済します。

〈広告〉労務者渡世合冊本

五〇〇〇円（テ込）

創刊号～第一号（一九七四・一二～一九七五・一〇）

黒クロス装上製、銀背文字、残部僅少。

定期購読者（郵送）募集中!!

六号（年分）一〇〇〇円、一二号（一年分）一八〇〇円

ともに郵送料含む。送金は、現金書留か振替（大阪二七〇八三五）かでして下さい。

労務者渡世編集委員会